苛政は虎よりも猛なり　解答

A　語句の意味と読み

(1) かたわら／そば・わき。 ／★歴史的仮名遣い「かたはら」の語中の「は」は「わ」に直す。「泰山の側を過ぐ」＝泰山のそばを通りかかる

(2) （人の死を悲しんで）声をあげて泣く。 ／「哭」は声を出して泣くこと。婦人は墓の前で、亡くなった家族をいたんで泣いている。⑤「子の哭するや」の「哭」も同じ

(3) 車の前の横木に手をかけ、身をかがめて敬意を表して（敬礼して）。 ／★「式」は車の前の横木（「軾」とも書く）。孔子は車に乗って通りかかり、泣いている婦人に敬意を表した。「儀式」の意味ではない

(4) まったく・いかにも・本当に。 ／唐の時代の注釈（孔穎達の疏）に「壹（壱）は決定の辞なり」＝言い切る言葉、とある。「一つに」と訳さない

(5) 夫の父。 ／★現代仮名遣いでは「しゅうと」。古い注（鄭玄の注）に「夫の父を舅と曰ふ」とある。夫の母は「姑（しうとめ）」

(6) 人々を苦しめる、きびしくむごい政治（重い税の取り立てや、きびしい刑罰・労役など）。 ／「苛」は「きびしい・むごい」。「苛酷（かこく）」の「苛」。この故事の題名にもなっている最重要語

(7) （心に）しっかり覚えておけ。 ／「識す」は「記す」と同じく「心に書きとめる」。「識せ」は命令形なので「〜せよ・〜しなさい」と命令の形で訳す

B　句法

(8) 「AをしてBしむ」と読み、「AにBさせる」の意。ここは「子路に（婦人に）たずねさせて」。 ／★「使」は助動詞「しむ」にあたるので、書き下し文では平仮名で書く。使役の相手Aには送り仮名「をして」をつける。返り点は「使二子路問一レ之」

(9) ⑤＝文の途中で主語（話題）を示して強める（「〜するのは・〜するようすは」）。⑬＝文末で断定を表す（「〜である」）。 ／⑩「去らざるや」の「や」も白文は「也」で、こちらは文末で疑問を表す。同じ「也」でも、置かれた場所と読みで働きが変わる

(10) 壱似二重有レ憂者一 ／読む順は 壱→重→憂→有→者→似。すぐ上の一字に返る「有」にはレ点、二字以上へだてて返る「似」には一・二点を使う

(11) ⑧＝動作の原因・相手を示す（虎によって死んだ＝虎に殺された）。⑬＝比較を示す（虎よりも〜だ）。 ／★どちらの「於」も置き字で読まない。下の「虎」に送り仮名「に」「よりも」をつけて意味を表す。形容詞・形容動詞（ここは「猛なり」）の下に「於B」がくると比較「Bよりも〜」。⑧を、受身の意味をふくむ用法と説明する教科書もある

(12) 置き字として読まない。「於是（ここに・これに）」の意味をふくみ、ここでは「（舅と同じく）虎に（よって）」という意味を表す。 ／教科書によっては「吾が夫又焉（これ）に死し、今吾が子又焉（これ）に死せり」と、「焉」を「これに」と読んで書き下すものもある（意味は同じく「虎に」）。また、文末で断定・強調の調子をそえる字とだけ説明する教科書もある。お使いの教科書に合わせること。「今吾子又死焉」の「焉」も同じ

(13) 「なんすれぞ」と読み、「どうして・なぜ」の意。疑問。（婦人が⑪「苛政無ければなり」と理由を答えているから。） ／「何為れぞ〜ん（や）」の形で反語になる文もある。相手が答えているか、文末をどう読んでいるかで見分ける

C　主語・指す内容

(14) 夫子＝孔子／之＝墓の前で泣いている婦人の泣き声。 ／「夫子」は弟子が師を呼ぶ敬称（先生）。本文は書き出しで「孔子」と書き、そのあとは「夫子」と呼んでいる

(15) 子＝婦人（相手を呼ぶ「あなた」）／口にしたのは子路（孔子に言いつけられ、孔子に代わってたずねた）。 ／④「子路をして之に問はしめて曰はく」の「曰はく」の主語が子路。★「子」を孔子と取りちがえない

(16) 主語＝婦人／子路が言った⑥「（あなたの泣き方は）まるで不幸を重ねて経験した人のようだ」ということを、そのとおりだと認めている。 ／「然り」＝そのとおりです。このあと婦人は、舅・夫・子と不幸が重なったことを話す

(17) 小子＝孔子のお供をしていた弟子（子路など）／之＝すぐあとの⑬「苛政は虎よりも猛なり」ということ。 ／「小子」は師が弟子に呼びかける語（おまえたち）。「之」が前ではなく後ろの内容を指していることに注意

D　口語訳

(18) 孔子が泰山のそばを通りかかった。墓の前で声をあげて泣いている婦人がいて、（その泣き方は）いかにも悲しそうであった。

(19) あなたの泣き方は、まるで不幸を重ねて経験した人のようだ。（「まったく、不幸がいくつも重なった人のようだ」でもよい。）

(20) 以前、私の夫の父が虎に殺され、私の夫もまた（虎に）殺され、今度は私の子もまた（虎に）殺されてしまいました。

(21) おまえたち、このことをよく覚えておきなさい。むごい政治は虎よりもおそろしいのだ。

苛政は虎よりも猛なり　解答／現代語訳

E　内容・記述

(22) 婦人の夫の父（舅）、夫、子どもの三人が、つぎつぎに虎に殺されたこと。 ／⑧⑨と「今吾が子又死せり」の三つの出来事をまとめる。「三代にわたって」と書いてもよい

(23) この土地には、人々を苦しめるむごい政治がないから。（ほかの土地へ移れば苛政に苦しめられると考え、家族を奪った虎がいても、この土地にいるほうがよいと思っている。） ／★「虎がいなくなったから」ではない。虎の害と苛政の害をくらべて、婦人は苛政のほうをおそれている

(24) 家族三人を虎に殺されても苛政のない土地を離れない婦人の話から、苛政は虎よりおそろしいと分かったから。（五十字） ／「家族が虎に殺された」「それでも去らない」「理由は苛政がないから」の三つをつなげて書く

(25) 見知らぬ婦人であっても、身内を亡くして泣く人に敬意をはらい、その悲しみに心を寄せて、きちんと耳をかたむける態度。 ／『論語』郷党篇にも、孔子が喪服を着た人に出会うと、車の横木に手をかけて敬礼したこと（「凶服者式之」）が記されている

F　故事・思想

(26) 『礼記』檀弓下篇／五経（易経・書経・詩経・礼記・春秋）の一つ。 ／礼についての記録や解説を集めた書物で、漢の戴聖（たいせい）がまとめたとされる。四書の『大学』『中庸』は、もとは『礼記』の中の一篇

(27) 政治を行う者は、重い税やきびしい刑罰で民を苦しめてはならず、徳によって民をいつくしみ、民が安心して暮らせる政治（徳治）を行うべきだという考え方。 ／『論語』為政篇「政を為すに徳を以てす（為政以徳）」。法と刑罰を重んじる法家の考え方とくらべると、ちがいがよくわかる

(28) 孔子の弟子（名は由）。勇ましく、まっすぐな性格の人物として『論語』にたびたび登場する。 ／『論語』公冶長篇で、孔子は「由や勇を好むこと我に過ぎたり」と言っている。なお、本によってはここを、弁舌にすぐれた弟子「子貢」とする

【現代語訳（全文）】

孔子が泰山のそばを通りかかった。墓の前で声をあげて泣いている婦人がいて、（その泣き方は）いかにも悲しそうであった。先生（孔子）は車の横木に手をかけて身をかがめ、敬意を表してその泣き声に耳をかたむけ、子路に（わけを）たずねさせた。（子路が）言うには、「あなたの泣き方は、まるで不幸を重ねて経験した人のようですね。」と。

すると（婦人が）言うには、「そのとおりです。以前、私の夫の父が虎に殺され、私の夫もまた（虎に）殺され、今度は私の子もまた（虎に）殺されてしまいました。」と。

先生が言うには、「どうして（この土地を）立ち去らないのですか。」と。

（婦人が）言うには、「（ここには）むごい政治がないからです。」と。

先生が言うには、「おまえたち、このことをよく覚えておきなさい。むごい政治は虎よりもおそろしいのだ。」と。

▸ 漢文の参考書のおすすめ（楽天・Amazonのリンクつき）　kotennosennsei.com/kanbun-sankousho/　　▸ 解説記事にもどる